

都、大型クルーズ船用のふ頭 整備へ

都議会公明党の提案受け、猪瀬知事が表明



猪瀬知事は、先の都議会代表質問で、大型クルーズ船が着岸できるふ頭を、東京五輪開催までに、臨海副都心地区に整備することを明らかにしました。

都議会公明党はかつての議会質問において、都に対して、専用ふ頭の整備を強く促していました。

今回の代表質問を前にした9月14日、遠藤守都議は、東京港に入港したアジア最大級の客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」を視察（写真①）。

船内には、一度に1000人の食事ができるレストラン（写真②）をはじめ、ジャグジーやショッピングモール、カジノ、スケート場まであり、豪華ホテルさながら。これだけの設備がありながら、1週間で10万円を切るコースもあるようです。

クルーズ船誘致は、東京五輪に向けた観光振興の目玉として、大いに期待されます。



共産提案の条例、全会派の反対で否決

先に閉会した定例都議会には、日本共産党都議団から、保育所を建てる区市町村などに用地購入費の一部を補助するための条例が提出されましたが、全会派の反対で、否決されました。

反対理由として都議会公明党は、条例では補助する対象を、区市町村と社会福祉法人に限定していますが、昨年1年間に新設された認可保育所の85%は土地又は建物を賃貸したものであり、かつ、株式会社の積極参入もあり、昨年度実績では株式会社が民間の認可保育所設置の半数近くを占めています。こうした実態から、年間50億円もの巨費を投じて、補助することの効果は甚だ疑問であると判断しました。

都議会公明党は、待機児童解消のためには、認可保育所はもとより、都独自の認証保育所、認定こども園、スマート保育、保育ママなど、多様なメニューを総動員していかなければならないと考えています。ここが、日本共産党都議団の主張と大きく異なる点です。